

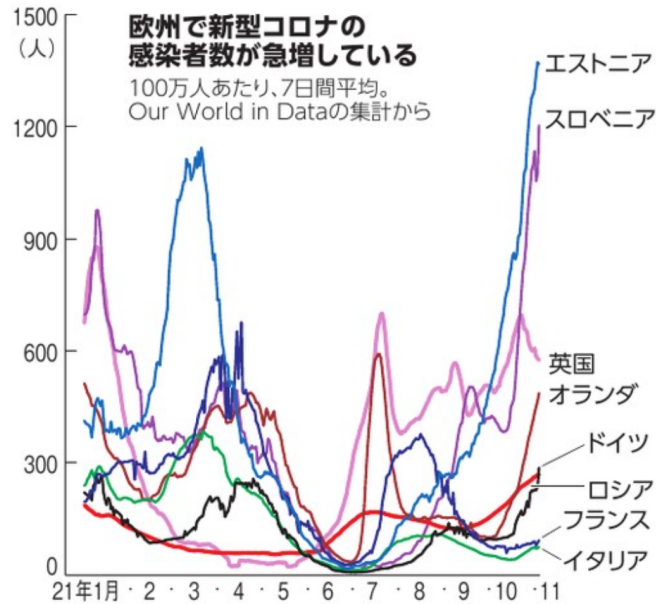
# 冬迎える欧州 感染増

欧州で再び新型コロナウイルスの感染者数が急増している。世界保健機関（WHO）は、ロシアや中央アジアを含む欧州管内53カ国で10月最終週の新規感染者数、死者数とともに世界の約5割を占め、再び感染の「震源地」になったと警戒を強める。ワクチン接種が進んでも悪化に転じた国もあり、ドイツは希望者全員に3回目の「ブースター接種」をする方針を決めた。

WHO欧州地域事務局によると、10月最終週は管内の新規感染者数が約180万人、死者数が約2万4千人だった。クルーゲ事務局長は「我々は再び（感染の）震源地にいる」と述べ、来年2月までにさらに50万人が死亡する可能性がある」と警告した。

WHOが懸念するのが接種率の伸び悩み。管内で接種が完了した人は47%で、バルト諸国や中東欧で接種率が低いという。100万人あたりの1日の新規感染

## 接種7割の独「3回目」急ぐ



者数はエストニアやスロベニアでは1千人を上回る。日本の人口に換算すれば12万人を超える事態だ。ただ、接種完了が約67%のドイツも感染拡大のペースが加速している。5日発表の1日の新規感染者数は3万7120人と2日連続で過去最多となった。寒くなり、換気の悪い室内での時間が増えたことも一因とみられるが、政府は接種率がまだ不十分だとして、未接種者に早急に接種するよう呼びかけている。2回接種後に感染しても重症化を抑えられる可能性は高い。集中治療の患者は1月のピークの約4割まで増えたが、その90%以上がワクチン未接種だという。3回目の追加接種についても、8月末に始めた60歳以上の高齢者らに加え、2回目から6カ月過ぎれば誰でも

## 仏・伊 ワクチンパスを強化

一方、フランスやイタリアでは感染はそこまで広がっていない。高い接種率に加えて理由に挙げられるのが、接種や陰性を証明する、いわゆる「ワクチンパスポート」の活用状況だ。フランスでは、8月に飲食店の利用などに提示が義務づけられた。さらにイタリアでは10月、労働者の所持が義務化された。ドイツでも飲食店の店内利用などに必要だが、確認されないことが多い。シュパーン保健相は3日の会見で、「（ドイツでも）もっとすべきところがある」と嘆いた。（ローマ＝大室一也、ベルリン＝野島淳、パリ＝足田多揚）

**冬場の感染拡大 日本でも可能性**

感染症対策に詳しい関西福祉大学の勝田吉彰教授（渡航医学）は、日本でも寒くなれば、欧州と同じ傾向になる可能性があるという。「気温が下がれば湿度も下がり、気管の粘膜が荒れてウイルスなどが入りやすくなる」。勝田さんによると、WHOの発表では、日本を含むアジア東部でも先週から感染が増え始めたという。（石塚広志）